

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270105077		
法人名	医療法人秀和会 釣船医院		
事業所名	グループホーム『おお空』 1F青天		
所在地	〒851-0115 長崎市かき道1丁目29番8号		
自己評価作成日	平成22年10月5日	評価結果市町村受理日	平成23年1月7日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成22年10月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅地の入口に6年前に開設された、医療法人の施設です。経営母体の医院は、住宅地の中に15年余り開業されている外科系診療所で緊急・急変時の際は早急に対応して頂け職員も安心して働いています。定期的な往診と利用者の運動機能維持を目的にリハビリ機材使用でのサービス提供をしています。「いっしょに・いつも・いつまでも」の介護理念は職員一同、基本と考えています。外部より講師を招き、音楽療法で楽器・手拍子・懐かしい歌を歌いながら運動機能の活性・回想法を取り入れています。今後も地域に開かれた事業所作りをもっと自治会・地域住民・同業者の方々が挨拶がてら気楽に立ち寄り地域で支え合い・助け合いながら開放された事業所にしていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「いつも、いっしょに、いつまでも」の事業所理念は、介護の現場で実践されている。日々の介護においては利用者がその人らしく暮らすための支援に取り組んでいる。利用者だけではなく、家族の意向や要望も尊重し、本人、家族を含めた支援をしている。母体が医療機関ということもあり本人、家族、医師、職員が一丸となり、重度化や終末期に向けて取り組みを行っている。食事においては、嗜好調査を行ったり、盛り付けや切り方などにも工夫する利用者のための支援をしている。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケアの中で言い交わし、介護の基本として生活ができる様支えている。	事業所理念の「いつも、いっしょに、いつまでも」は明確で分かりやすく、ケアをする上での基本姿勢となっている。日々の生活におけるあらゆる場面で実践し、利用者の安心に繋がっている。理念は朝礼での唱和やミーティングで確認共有している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	一年を通して、行事に地域の方を招待したり利用者と共に参加し交流を図っている。	理念は地域との関わりにも活かされている。地域の防災訓練や市民大清掃の参加、ペーロン大会の見学をしている。事業所主催の新年会や敬老会には住民の参加がある。自治会にも加入し地域の一員として「いっしょに」交流をしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学校の職場体験の実習を受け入れている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で活動内容や利用者の状況等を報告し意見や要望を受け入れサービスの質の向上に活かしている。	会議は2ヶ月1回の開催を目標に施設長、職員間で検討し毎回テーマを決め、既定のメンバー参加で実施している。利用者の様子や行事の案内、外部評価等の報告をしている。消防訓練時の地域住民への働きかけにおいては、自治会長より助言を得るなどしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービス提供を行っていく上で生じた課題は、市町村の担当者に相談している。	市町村担当者とは消防訓練の合同訓練実施に向けての話し合いや、介護保険に関する相談などを電話や出かけて行っている。運営推進会議出席の際、終了後に事業所の取り組みを伝える等、良好な協力関係を築くように努めている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が、安全で生き活きた自由な暮らしができる様、見守りながらさりげないケアができる様取り組んでいる。	職員は身体拘束による弊害を理解しており、安全のためであっても拘束はしないための見守りについて、日常的に話し合うなどして情報の共有を図っている。夜間時における徘徊やベッドの滑落予防として夜間勤務を職員二人体制にするなどし、混乱や事故による危険を防止するなどしてケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者に虐待行為は見られない。衣服着脱時や入浴時に虐待の様子がなかったか観察する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要とされる利用者はいない。学ぶ機会を持ちながら、今後の活用に活かせる様支援したい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族の来訪の際、ケアマネ 管理者が話しを聞き、不安や疑問を解消出来る様な雰囲気作りをしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しいつでも気軽に意見と言える体制は取っている。又、家族からの電話にも丁寧に耳を傾けている。	家族の意見や要望は、面会時の利用者の様子を伝えると共に話し合いながら「ご家族対応記録」に記載している。記録は管理者、職員で検討し、更に家族が意見を出し易くするアンケートを作成中で、情報収集に取り組んでいる段階である。	利用者や家族がより多くの率直な意見や要望を出せるようアンケート配布を行い、より一層運営の反映に繋がることを期待したい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングをし、職員の意見交換をし問題解決に向けて努力している。	毎日の朝礼や月1回のユニット会議、常勤会議や年1回の全職員会議の中で意見交換をしており、内容は管理者、理事長も把握している。職員の意見を反映し、検討の上利用者のためのカラオケセットを購入している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員からも意見や悩みを聞き、職員がやりがいと向上心を持って働けるように努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通して、職員の経験に応じた研修を受ける様にしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームと交流を持ち研修等に参加し、サービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所時ホームに馴染んでいただく為に、表情や態度に注意を払い本人の要望を満たすよう又、信頼関係を築く様努力している。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>利用者の方の生活ぶりを細かく報告し、家族の不安を取り除くよう努力している。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人や家族の希望を聞き、必要なサービスは早急に対応出来る様努力している。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者の出来る事を把握し一方的に押し付けるのではなく、協力し残存機能を維持し向上できる様支援している。</p>		
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用者の日頃の状況を家族に話し、家族の支援が必要な時は協力していただける関係が築けている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>利用者の馴染みの土地が、テレビに出たりした時は話題にし、思い出話をする。</p>	<p>家族や親戚の面会が多く、家族の協力で墓参りや教会、馴染みの理、美容室へ出かけたり、訪問がある。家族との電話や手紙のやりとりもある。利用者は地域住民が多くペーロンや運動会の行事参加など、馴染みの関係継続を支援している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の関係が、円滑になる様見守っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も気軽に声を掛けてもらえる様な雰囲気と関係作りを行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、利用者の言葉や行動表情等に注意し見守りを行っている。	入居時の生活歴を基に寄り添いながら優しく声かけを行い、本人の意向や思いの把握に努めている。困難な場合は動作や表情、家族と相談し検討しながら、その人らしい暮らしの支援をしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドを皆が把握出来る様にしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の始まりに本人の健康状態をチェックし、生活のリズムを把握し本人の出来る事をしていただく。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回職員同士の話し合いを持ち、家族の要望等も取り入れ、介護計画を作っている。	入居前に利用者の生活歴や本人、家族の要望を聞きまずは計画の原案を作成している。入居後は日々の様子を記録し職員間で検討し、それを基にケアマネージャーが介護計画を作成し、家族に説明している。3ヶ月1回の見直しだが状況に応じて対応している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の暮らしや気付いた事を毎日記録し、利用者が快適に暮らせる様に職員間で情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況を考慮し、ストレス等が掛からない様一緒に話し合い、できる限りの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	会議の折に地域包括支援センターの職員や民生委員の参加が有り、協力関係が築けている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人の為、適切な医療が受けられる。定期的な往診があり、専門医療が必要な時はその都度、受診を行っている。	母体が医療機関であり、基本的には入居時に家族へ説明し移行の同意を得ている。かかりつけ医の継続の場合は家族同行のため、受診結果は連絡があり記録している。母体医院の院長が週1回往診や24時間体制で適切な医療の支援をしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入所者の体調の変化に気を配り、変化があれば看護師へ連絡している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際には、管理者 ケアマネ他職員ができる限りお見舞いに行き、その都度病院関係者に現在の状態をお訊ねし情報共有に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、主治医や家族 職員との話し合いを持っている。	入居時に、重度化や終末期に向けた説明が行われ指針を文書化して家族の同意を得ている。利用者の状況に応じて医師や家族、職員が連携しながら、安心して最期を迎えられるよう支援している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1度消防署の職員を招き、応急手当での訓練を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災訓練を行っており、地域の方への協力も得られる様に努めている。	年2回消防署立会のもと避難訓練を行っており、夜間想定も行っている。職員は避難経路の確認、消火器の使い方指導を受けており、自治会からは民生委員の参加がある。常備品の保管はなく検討中である。現在、地域との合同訓練を計画し検討している。	事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得るために今後も民生委員や自治会長に働きかけを行い、地域との合同訓練を実施する事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対し誇りを損なわない様な声掛けを行い、オムツ交換時やトイレ使用時はドアを閉め他人の目にさらされない様目配り気配りをしている。	利用者の個人情報に関する書類や写真掲載における同意書を得ている。職員の守秘義務も誓約書を取っている。排泄時には声かけや言葉、誘導の仕方等自尊心や羞恥心への配慮に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者へ選択を提案し、自分で決めることが出来る様心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の思いを聞き入れたり、思いを伝えられない時は利用者の動きや表情を見て個別性の支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容室に行ったり、ホームに床屋さん美容室の方に来ていただいて、好みに応じたおしゃれ等出来る様に支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望のメニューがあれば、希望を取り入れ個々の能力に合わせ手伝っていただいている。	食事担当職員があり、日々の食事の感想を検討しながら作成している。嗜好調査や職員が交代で感想を書くなど、利用者の好みや要望を取り入れた献立を作成している。職員は同じ食卓で食事をしており、会話が弾み食事を楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量や水分量を記録し、足りない分、本人の好みの物で補う様努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人が出来ない時は、職員が手伝って口腔ケア清拭を毎食後行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の動きや表情を見て、声掛けを行い排泄の失敗を少なくしている。又、排泄チェック表を利用しトイレ誘導を行っている。	排泄表により利用者個々に合わせたトイレ誘導を行っている。職員全員がリハビリパンツから布パンツへの移行を目指している。さりげない声かけや動作、表情の察知による誘導を心がけている。プライバシーに配慮しながら支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い食材や乳製品を摂取していただき、適度な運動が出来る様ケアしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日の入浴は困難だが、熱発以外は週2～3回の入浴を行っている。1人1人にあった入浴を支援している。	各ユニット毎日お湯は溜めており、いつでも入浴できるようにしている。利用者希望で同性介助や一番風呂、好みの職員に対応し、入浴を楽しめる支援をしている。拒む方はシャワー、清拭を行い、体調を見ながら入浴できるよう支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境整備を整え(布団・室温の調節)個別に休息出来る様支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が、飲んでる薬を理解し、副作用が出ていないかチェックを行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	音楽の好きな方には、音楽を聞いていただいたり一緒に歌を唄ったり、手作りのお手玉を一緒に行ったり好きなスポーツのテレビを見てもらったりしている。又、音楽療法にも取り組んでいる。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換やストレスの発散が出来る様、戸外に出掛ける様支援している。	利用者の希望で、買い物やドライブ、外出支援をしている。家族の面会も多く一緒に外泊、外出をしている。行事計画に花見などを取り入れ、全ユニット、都合によってはグループで出かけている。個々の外出は家族の協力も得ながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族・職員共に理解し買い物等の支援も行っている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>気兼ねなく電話が掛けられる様な雰囲気作りを行い、家族や知人関係の継続に努めている。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>環境整備を整え、共有空間が安らげ居心地のいい場所になっている。</p>	<p>広々とした共有空間は明るく窓から外の景色が見える。共有空間は利用者個々がゆっくり過ごせるように、椅子や広いソファが置いてあり、畳の場所も設けている。掃除は朝から職員が行い換気もよく、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングで気の合った利用者同士談話されている。又、利用者同士話しが出来る様居場所の移動も行っている。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に使い慣れた家具等持ち込みをお願いし、入居後も必要な物があれば使い慣れた物を持って来て頂き安心して過ごしていただく様にしている。</p>	<p>利用者個々の使い慣れた物やタンス、家族の写真、椅子、テレビ等を置いている。家族の面会が多いため、利用者が心地良く過ごせるための相談に心がけている。居室は毎日職員と利用者で行い、換気も充分に行われている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者の身体機能を考慮し、バリアフリーにしている。</p>		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270105077		
法人名	医療法人秀和会 釣船医院		
事業所名	グループホーム『おお空』 2F満天		
所在地	〒851-0115 長崎市かき道1丁目29番8号		
自己評価作成日	平成22年10月5日	評価結果市町村受理日	平成23年1月7日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成22年10月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅地の入口に6年前に開設された、医療法人の施設です。経営母体の医院は、住宅地の中に15年余り開業されている外科系診療所で緊急・急変時の際は早急に対応して頂け職員も安心して働いています。定期的な往診と利用者の運動機能維持を目的にリハビリ機材使用でのサービス提供をしています。「いっしょに・いつも・いつまでも」の介護理念は職員一同、基本と考えています。外部より講師を招き、音楽療法で楽器・手拍子・懐かしい歌を歌いながら運動機能の活性・回想法を取り入れています。今後も地域に開かれた事業所作りをもっと自治会・地域住民・同業者の方々が挨拶がてら気楽に立ち寄り地域で支え合い・助け合いながら開放された事業所にしていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者・御家族・地域関係者・に対する職員一同は「いつも・いっしょに・いつまでも」の理念は変わることはありません。日頃より努力・邁進していきます。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人達との関わりを大切にし催し物・清掃活動の参加、地域の人達を招いてのお茶会・敬老会・近隣の中学生の職場体験の受け入れ、入居者の方が毎年、楽しみにしている、園児慰問・防災活動など積極的に活動している。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域関係者との関わりの中で緊急時での協力要請のお願い、パンフレットを配布し施設に対する御理解を地域の人達に、お話をしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年6回開催での御協力は構成委員の皆様には理解は得られている。今後は各構成委員のメンバーからテーマを頂き検討する。その内容を他の御家族に掲示による御報告できるようにしていきたい。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村に地域の消防署・消防団との合同訓練での困難を、地域の実情を交えて相談するなど取り組んでいる。他のサービス・介護保険での分からない事など今後も尋ねていきたい。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄關の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各入居者の動きを職員は日頃より把握し不穏・徘徊・に対する対応は抑制をしない工夫を共有的に話し合い、安全と・拘束の矛盾を常に考慮し取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員による馴れ馴れしい態度・配慮のない言葉使いなど管理者・職員間で指摘し合い、自尊心を損ねないケアをしている。職員のストレスなど周りの職員が助け合う配慮は必要不可欠。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に対する勉強会・研修など入居者・御家族等のプライバシーなど深く関わる問題でもあり、積極的に取り組み支援体制ができるようにする。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・重要事項説明に対するお話は時間・説明期日を申し合わせして御家族が納得・御理解できるように質疑・応答を交えて、時間に余裕をもって説明しています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に入居者の方に出席して頂き本氏が日頃、感じている事を問いかけ意見を聞き入れお話しできる場を設けています。御家族・関係者の意見は会の質疑応答で話し合い困難な問題など次回の会議で解答するようにしています。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場の意見・提案は、職員で協議し、管理者が代表者に意見をまとめ相談しています。全職員会議で意見交換の場を設けている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営に対する不満・不具合は職員全体の意見として管理者が代表者に質問し解答を頂き、職員の意見が反映されるように取り組んでいる。代表者は、意見に添うよう努力している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は研修・勉強会を受ける機会を促している職員が積極的に参加している状況ではないが今後は施設内での勉強会を取り入れ職員の質、向上に努めていきたい。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者間での情報の交換・勉強会など地区の定期的な会議をしている。交流・親睦は入居者を伴い近隣のGH主催での夏祭りに参加している。当ホームからは敬老会・お茶会・他、催し物開催の折に関係者をお招きをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意志を尊重し確認しながら根底にある、主訴を理解し察するよう努力している。御家族の意向を汲み取り徐々に信頼関係を築くように職員は努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が本氏を思う、立場・心情を理解し、御家族・入居者が現在、困っている、それぞれの状況の把握し、理解に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本氏が今、必要とするサービスを見極め、本氏・御家族・各関連専門の関係者と話し合い・連携確認してサービス提供しています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃より馴染みの関係作りを大切にし、自尊心を尊重し、馴れ馴れしい言葉使い・配慮のない対応は、しない。利用者は人生の先輩であるという考えを職員は共有している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族との疎遠にならない工夫は入居費の支払いの折に日頃の様子を報告・電話による体調の変化・催し物関連の日時の連絡をしている。御家族の関係が利用者に途切れず関あっていただける支援作りをしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	認知的な衰えで生活範囲が狭くなる一方、入居者同士での新しい馴染みの関係作りへの支援・おさな馴染みの面会・遠い親戚の安否の電話対応など、職員は不穏・戸惑いが起こらないように支援している。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の力量を把握し持ち場・持ち場の個性を発揮できるように席の位置・組み合わせなど考慮し見守り・助け合い・支え合って楽しく過ごせるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	環境の変化による行き慣れた病院への困難な受診・馴染みの美容院への外出・幼馴染の面会など本氏の体調の変化、御家族の意向を汲み入れ協力支援をしています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本氏の思いや希望は意向に添う個別的支援も必要、また職員全体で話し合い共有的な連携を心がけ御家族と相談して支援をしています。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各利用者の生活歴・家族歴・職業・性格を見極め、お話・傾聴し生活支援をしている。新たな情報は職員と共有的に情報を把握し検討、支援しています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各利用者の日々状況の把握は、いつもと違う体調の変化の気づきは記録に残し各職員と確認・連携し看護師に連絡し医師に報告している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者等の気持ちの変化、身体的な衰えによる表情・動きを見逃さず、常に状況の変化はケアマネを交え職員で話し合う。その結果は御家族に相談・本氏の意向を尋ね支援している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化に伴う対応は・状況の把握と経過観察を医師へ報告し指示を仰ぎ対応している。対応した経緯の報告は御家族に連絡し「御家族対応表」に記録し、職員間で情報の共有をしている。介護計画にも組み込まれている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本氏の意向を踏まえて柔軟に対応している。体調の変化に関わる外泊・長時間での外出支援は医師の指示を仰ぎ御家族に相談し協力支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防訓練・自治会主催の催し物への参加・協力は行っている。施設で行われる行事関連にはボランティア・地域の同業者・関係者を、お招きをして交流を深めています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望・本氏への意向を汲み取り継続的な受診対応を行っている。本氏の長時間外出受診での体力的な負担を考慮すると御家族と相談した結果、近隣の病院・当医院での対応など柔軟に対応している。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所には看護師がおり介護職員による利用者への体調の気づきは早急に連絡し対応しており医師に報告、指示を受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者・御家族が事業所と縁遠くならないように職員は心がけてお見舞いに行くようにしています。長期受診に際して、管理者・ケアマネが、面会時に担当者より本氏の体調を伺い、御家族に連絡を取り合っています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアの方針はマニュアル同意文書に説明しております。その時々揺れ動く、御家族の心情を汲み取る、職員の教育的な支援の取り組み、医師を含めた24時間看護での体制作りを検討し取り組んでいきたい。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時でのマニュアルは備えているが実践での対応は今年2月、緊急時対応訓練を行いました。今後も定期的な訓練で実践力を身につけるよう取り組みたい。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練は所轄の消防局の立会、自主訓練を行っています。地区の消防訓練に参加している。今後、同業者・各関係機関に合同訓練での参加・協力と開催を働きかけていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対する自尊心の配慮は、その人らしい人格を大切にしている。プライバシー・言葉かけ・接遇マナーなど本氏に気分を損ねない取り組みをしている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者への自己決定での対応は本氏の気分・体調・傾聴など総合的な判断で配慮している。無理強いはしていません。気分転換による外出・入浴・レクリエーションでの働きかけはしているが最終判断は本氏に委ねています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれのスペースで居室・フロアなど楽しく過ごして頂いている。ただし偏った生活リズムにならないように気分転換を促しています。利用者を見守りながら柔軟に支援対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御家族と相談しながら衣類の補充・衣類の交換時期に利用者が依然、好まれていた洋服の情報得て、本氏の気分・意向・確かめ、気持ちよく着て頂ける様に心がけている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各家庭で使用していた茶碗を持参、誕生日プレゼントで贈呈の、湯呑・はしを揃えて食事の前に嚙下体操を職員がリードし利用者に協力していただき大きな声で「頂きまーす」と職員と入居者が楽しく関われように心がけている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量・水分量の把握と各入居者等の食事の食べ方・進み具合・日頃と違う気づきなど職員と情報の交換をしている。体重増減は一週間に一回体重測定している。全て記録している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は、口腔ケアの必要生を理解し各入居者の力量に応じて対応しています。嫌がられる入居者に対しても習慣づけを促し職員の声かけで義歯の管理・口腔ケアを行っています。必要に応じて歯科医の往診をお願いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易にオムツ対応にしない工夫とトイレ誘導での対応を継続できる支援を心がけ日勤帯はP/WC・尿器対応は控えています。排泄チェック表でパターンを把握し定期的に声かけ誘導でトイレにお連れしています。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事と水分摂取を促し食事前の体操・散歩などの生活習慣における自立的な運動を心がけています。それでも便秘が続くようなら医師に相談し薬での指示を頂きます。滴便による排便は極力しておりません。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声をかけるタイミング、各入居者に合った時間帯の誘い体調の配慮、入居者の不安を取り除くために気ごころの合った職員の対応、一人ひとりの意向を尊重し、無理強いをしない入浴を心がけています。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各入居者の日頃の睡眠におけるパターンを把握し夜勤時での不眠による利用者の昼寝を促したり、ストレス・不穏・体調による不眠など一人ひとりの対応に応じて良眠できる支援をしています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者への薬の変更に伴う職員の対応は、薬の変更を記載した看護申し送ノートを確認する。申し送りを受ける。連絡必要の場合、御家族に変更の説明を看護師より説明し記録しています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者への役割が負担にならないように各入居者のそれぞれに合った作業を体力と力量を見極め、役割・趣味での支援を心がけています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出での希望は可能な限り本氏の希望に添うようにしている。体力的に長時間での遠出・御家族の協力支援における外出希望など医師の許可を得て協力支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>生活必需品などの購入もあり、御家族様より預かり金として事業所で管理しています。個人的な金銭の管理は本氏のお金に対する不穩の原因となり、中々、難しい状況です。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>事業所内での電話取り次ぎ・手紙のやりとりは自由に行われています。遠方からの電話対応での仲介必要での職員対応、郵便物・小包の受け渡しなど支援協力している。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>職員は季節折々に貼り絵・お花を飾り、季節を感じて頂いている。季節的な催し物の折にも季節を感じる食事を提供しています。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>フロア内のスペースには職員で工夫しながら、利用者の思い・おもいに対応した、ゆったりとしたソファを各スペースに置き、くつろげる場所になっています。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みのある家具、本氏が落ちつかれる置物、御家族が、本氏に配慮した、思い思いの品は大切に扱わせて頂いております。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>安全への環境の取り組みは各職員間での事故に対する予防処置の検討、ひやりはっとの徹底した対応、日頃の見守りに対する危険予防に対する情報の交換での話し合いをしています。</p>		